

平成24年度 第1回 京の環境共生推進計画評価検討部会  
議事摘録

日時 日時：平成24年12月19日（水） 10時00分～11時20分  
場所 職員会館かもがわ 1階第1会議室  
出席者 小幡部会長，板倉委員，外池氏（奥原委員代理），徳地委員，深尾委員，村瀬委員，  
吉村委員  
欠席者 大久保委員

内容

1 開会

2 事務局挨拶

3 議題

(1) 京の環境共生推進計画の進ちょく状況について

・事務局より資料1-1から資料1-2までの説明

(小幡部会長) 「京の環境共生推進計画」の5つの目標に対して環境指標の進ちょくについて説明をいただいた。各目標に対して取組が進んだ項目，取組が進まなかった項目についても説明いただいた。質問，意見があればお願いしたい。

(板倉委員) 4ページの酸性雨は，何箇所の平均値か。

(島垣環境指導課長) 衛生環境研究所1箇所で測定した数値である。

(小幡部会長) 板倉委員が測定している結果は，どの程度か。

(板倉委員) 学生に手伝ってもらい，区ごとに計測している。測定値はpH4～5の間であるが，南区の国道1号線，名神高速のインターチェンジといった車の多い場所で計測すれば，もっと低くなる。

(小幡部会長) 測定ポイントを増やす計画はないのか。

(島垣課長) 今のところ考えていない。

(板倉委員) 常時監視局の屋上等で計測してはどうか。

(島垣課長) 測定局の管理が難しい。また，実績値のpH4.7は京都市全体の平均的な数値と考えている。

(板倉委員) 以前，保健所の屋上で観測したことがある。

(村瀬委員) 家庭ごみが増えた原因は何か。

(山田計画調整担当課長) 家庭ごみが増えた原因について，確定的な理由は見当たらない。市民の皆さんの協力のもと，家庭ごみの有料指定袋制の導入，資源ごみの分別回収などにより一定の効果は得られている。しかし，取組を緩めると，また増えてしまうということになる。家庭ごみは，生ごみ，紙ごみが多くを占めている。これらに対する取組，啓発が必要と考える。

(村瀬委員) 「黄色い有料指定袋の中に紙類は入れずに、資源ごみとして出して下さい」とすると、ごみの量が少し減ると思う。

(山田環境企画部長) ごみ量のピークは平成 12 年度だった。現時点でごみの量はピーク時から 40%削減できている。家庭ごみ有料化は 18 年から始まったが、有料化の効果により 20%削減できている。今のごみの中味を分析すると、紙ごみが約 3 割、生ごみが約 4 割、その他、プラスチック、金属類など約 3 割。紙ごみを黄色い有料指定袋から取り除くことができるか。村瀬委員の指摘のとおり、これをターゲットにして取り組むことにより、さらに減量が可能と思われる。

(小幡部会長) 有料化の反動はあるのか。

(山田部長) 他都市では、有料化が終了して 5 年ほど経過すると元に戻る、あるいは元のごみ量より増えるケースがあると聞いている。京都市では、来年 1 月に東部クリーンセンターを閉鎖する。かつてクリーンセンターは 5 工場あったが、来年 1 月からは 3 工場となる。ごみの減量を進めなければ 3 工場体制が維持できない。その 1 つの大きなターゲットが紙ごみとなる。

(村瀬委員) 紙の分別は最も取り組みやすい。それを、どのように市民に PR するのか。

(山田部長) 今、来年度予算に向け、どういった取組が効果的なのか検証を進めている。

(小幡部会長) 二酸化炭素排出量については、産業部門は大幅に減っているが、民生は家庭部門、業務部門とも増えている。この点について意見等はあるか。

(山田課長) 増加の要因として店舗等の課税床面積が増えている。また、世帯数も増加しているといった統計データがある。

(小幡部会長) こどもエコライフチャレンジ、環境家計簿など様々な取組が挙げられている。他にアイデアがあれば伺いたい。

(村瀬委員) 自分が住んでいる学区がエコ学区に認定された。昼間はバスが 1 時間に 1 本もない時間帯もあり、どうしても自家用車を利用する。エコ学区に認定されたおかげで住民がガソリンの消費量を抑えるエコドライブに関心を持つようになった。エコ学区は 2 年で終了すると聞いているが、来年度は、どうなるのか。

(山田課長) 各区役所・支所ごとに 1 学区、エコ学区を設け、昨年度から取り組んでいる。現在のモデル地区は基本的に 2 年間だが、最終的に全学区で取り組むこととしている。

(山田部長) 平成 27 年度までに全学区で取り組むことを目指している。

(村瀬委員) 学習することで皆の意識が変わってくる。是非、進めていただきたい。

(徳地委員) 京都市では、公共の建物にペレットストーブ、薪ストーブの導入に取り組んでいるのか。

(山田部長) 導入している。民間への助成制度も行っている。農林振興、農業生産などと連携して取組を進めている。

(徳地委員) 資料 1-2, 11 ページの光化学オキシダントが全局で未達成である。こうしたら達成できるなどの提案があると良い。あと、資料 1-2, 25 ページの図 3.13 親水性のある河川空間の整備延長は累積値で集計されているが、14 ページの図 2.8 の透水性舗装延長は単年度の集計となっている。歩道の修理はできるが、透水性のある舗装空間は市の管轄でな

- いなど何か理由があるのか。集計の方法が違うのはなぜか。
- (山田部長) 道路、河川ともに市が管理するものと国や府が管理するものがある。管理区分によって指標の集計方法を分けていない。ある指標は単年度で集計、ある指標は累積で集計しているのは、統計上、問題があるのか確認する。
- (板倉委員) 透水性舗装は騒音が低くなる。しかし、3年ほど経つと目詰まりして水を通さなくなる。だから、毎年、集計する方が良い。累積する意味がない。
- (徳地委員) どちらも単年度で集計すれば良い。
- (板倉委員) 資料1-2の親水性のある河川空間の整備延長は、京都市が整備したもののみなのか。京都府分は含まれていないのか。
- (山田部長) 資料に掲載しているのは京都市分のみである。
- (板倉委員) 京都市内にも、小畑川など京都府が管理している河川がある。それらは含まれていないということか。
- (山田部長) 含まれていない。
- (徳地委員) 7ページの図1.8, 21ページの図3.3, 図3.4などのグラフは、余白が広く取られている。一方、21ページの図3.6など棒が詰まっているグラフがある。何か基準があるのか。また、指標は1ページに記されている矢印が赤色、緑色、青色に色付けされているが、達成度の二重丸、丸印は白黒となっている。達成度の印をカラーにした方が効果的ではないかと思われる。
- (山田課長) 次回の資料作成の際に検討したい。
- (島垣課長) 光化学オキシダントについて補足説明をさせていただく。例えば、工場等から排出される硫黄酸化物などを削減すれば、測定局の測定結果に反映される。しかし、光化学オキシダントは、VOC、窒素酸化物と言われているものが排出されて光化学、いわゆる光の反応によって発生する。大気汚染防止法が平成18年に改正され、VOCの排出量規制はかなり強化されており、京都市内でも3割近くVOCの発生量が削減されている。しかし、大気局におけるオキシダント濃度には反映されていない。これは全国的に同じ傾向にあり、全国でも平成23年度に達成している都市は皆無であった。光化学スモッグの発生形態について、以前は大阪湾で高くなったものが京都市内まで上がって来るといった傾向であったが、最近は京都市南部地域で高い値が出て、それが京都市内に入ってくるという傾向を示している。光化学スモッグの発生における調査、知見が必要であると感じている。それが達成率の上昇にもつながる。今のところは対策がない状態である。
- (徳地委員) それならそれで、発生の原因、未達成の理由を書かないと、何も取組んでいない印象を受ける。
- (小幡部会長) 国の動向を加えるなどしていただきたい。
- (徳地委員) 資料1-1の⑤に自然体験学習の場利用者数が減少傾向であることが紹介されている。子供の数自体が減っているのか、それとは関係なく、体験学習の場が活用されなくなってきたのか。
- (田代係員) 明確な原因は不明であるが、集計の対象となる野外活動施設の稼働状況は、ほぼ毎日、予定が埋まっている状況と聞いている。資料1-2, 22ページに京都市の小学生数の

推移を記しているとおおり、年々、減少傾向となっており、減少している要因の一つと分析している。

(徳地委員) それでは、京エコロジーセンターの利用者が増えているのは、広告の効果によるものか。

(山田課長) 京エコロジーセンターでは、来館者数の増加に向け、積極的にPRに取り組んでいる。また、イベント数を増やすことや環境に関する講座を続けたことが入館者の増加につながったと考えられる。

## (2) 環境レポート(案)について

### ・事務局から資料2について説明

(小幡部会長) 大体の構成はできており、新規に掲載する内容として、4、5ページに「京の環境共生推進計画」の進捗よく状況全体がわかるようなものを見開きで入れること、ページ9に自然環境保全に関することを入れたらどうかということ。他に震災関連など何かトピックス的なものがあれば、自由に意見をいただきたい。

(村瀬委員) 環境レポートには良いことが書いてあると思うので、市民の方々には、もう少し、ゆっくり見ていただきたいと思う。損か得かで考える人が意外に多い。これをしたら得だとなるとパッと飛びつくが、損得に係わらなければ他の誰かがやったらいいと考える人がいる。損得で何かをアピールしないといけないのかという気になる。

(山田部長) 村瀬委員の指摘のとおり、今後は何らかのインセンティブが必要になる。家庭ごみの有料指定袋制により、一定の財源を確保した上で事業を行っているが、45リットルのごみ袋を処理するに当たり297円の処理費用がかかっている。こうしたことを市民の皆さんは、あまりご存知ないように思われる。やはり、市民の皆さんに見えるよう、広くアピールしていきたいと考えている。

(板倉委員) 今も行われている「京都のいきもの発見」で虫、鳥、緑に触れ、子どもたちに環境を保全しないといけない意識を持ってもらうことは良い取組である。小学校低学年、幼稚園など子どもをターゲットにした取組を行政が始めたことは大々的に取り上げて良いと思う。

(小幡部会長) 京都市では、どのくらいの小学校で、この「京都のいきもの発見」が実施されているのか。

(深尾委員) 「京都のいきもの発見」については、前任の小学校では実施されていたが、今の小学校では行われていない。

(宇高環境管理課長) 各学校には、案内を送付している。

(板倉委員) 授業の一環としてできることがあると思われる。それを上手く利用できないものか。

(深尾委員) 前任の学校では、子どもたちにチームを作って見つけたいきもの数等を競わせた。

(小幡部会長) 認知度が上がれば、色々な情報が集まり、冊子のようなものができるかも知れない。

(村瀬委員) 緑を多くすることは地球環境に良いことだが、逆に、緑が多くなってくると、落ち葉の処理の問題が発生する。焚き火など昔ながらのものを子どもたちに伝えたいが、それなかなか難しくなっている。

(島垣課長) 基本的には、一般家庭が落ち葉を焚き火で処分することに規制はない。ただし、住宅事情で煙による苦情が出る。近所迷惑になるので焚き火は控えていただいているのが実情である。

(小幡部会長) 9ページは子どもを中心に「京都のいきもの発見」などを盛り込み、事務局で環境レポート案を作るということにさせていただきたい。

### (3) 今後のスケジュールについて

(山田課長) 次回、第2回の評価検討部会は、平成 25 年 2 月上旬を予定している。検討内容としては、京都市環境審議会への報告内容、平成 24 年版の環境レポート案について意見を伺いたいと考えている。

それを踏まえて平成 25 年の 2 月下旬から 3 月頃に京都市環境審議会を開催して、本計画の進捗よく状況および環境レポートの報告を予定している。

## 4 閉会